



日本ライフライン株式会社

2026 年 3 月期 第 1 四半期決算説明カンファレンスコール

2025 年 7 月 31 日

イベント概要

[企業名]	日本ライフライン株式会社		
[企業 ID]	7575		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2026 年 3 月期 第 1 四半期決算説明カンファレンスコール		
[決算期]	2026 年度 第 1 四半期		
[日程]	2025 年 7 月 31 日		
[ページ数]	23		
[時間]	16:30 – 17:06 (合計：36 分、登壇：21 分、質疑応答：15 分)		
[開催場所]	電話会議		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	3 名		
	代表取締役 副社長執行役員	村瀬	達也（以下、村瀬）
	取締役 常務執行役員 経営管理本部長	江川	毅芳（以下、江川）
	取締役 上席執行役員 不整脈事業本部長	伊藤	孝志（以下、伊藤）

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[アナリスト名]*	みずほ証券	甲谷 宗也
	野村證券	森 貴宏
	UBS 証券	葭原 友子

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

篠原：皆様、お待たせいたしました。本日司会進行を務めさせていただきます、日本ライフライン株式会社経営企画部の篠原です。本日はお忙しい中、当社の2026年3月期第1四半期決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。本日の説明会には、代表取締役副社長執行役員の村瀬達也、取締役常務執行役員の江川毅芳、取締役上席執行役員の伊藤孝志が出席しております。

これより、IR担当取締役の江川から、2026年3月期第1四半期決算について、合計約30分間のプレゼンテーションを行い、その後、質疑応答を行います。会議の全体の時間は約60分を予定しております。ご説明は、本日ホームページに掲載いたしました決算説明資料に沿って行いますので、ご覧いただければと思います。

電話会議を始める前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明では、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っています。皆様には、実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

それでは、説明を開始いたします。

2026/3期 Q1 決算ハイライト

JL Japan Lifeline

2026/3期 Q1		決算ハイライト	
売上高	14,616 百万円 (前年同期比 + 4.3%)	外部要因	増収・営業増益
営業利益	3,272 百万円 (前年同期比 + 2.4%)		(+) AF症例数は前年同期比5~6%増加 ⇒ 学会の影響除くと8~9%増加*1
四半期純利益	2,302 百万円 (前年同期比 ▲ 1.6%)		(-) 一部製品にPFAの影響 (-) 公定価格の改定(影響2か月)*2
		内部要因	(+) コア製品群*3は総じて好調 (+) 新領域は前年同期比47%増加 (-) 研究開発費等の販管費増加

*1 2025年5月開催の不整脈関連の主要学会(カテテルアブレーション関連大会)の影響。同学会は前期は2024年11月(Q3)に開催。学会には全国の不整脈医が参加するため、大会期間の前後で症例数が減少
*2 2024年6月に公定価格が改定。2025年4月、5月の販売単価は前年同月比で下落

*3 競争力が高く特に主力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテテル「BeeAT」、②大脳静脈用止血デバイス、③S-ICD、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントランク)

4

江川：CFOの江川です。では、資料に従ってご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

まず、4 ページの決算ハイライトからご説明させていただきます。

第1 四半期の結果としましては、増収、営業増益となりました。売上高につきましては、4.3%増収の 146 億 1,600 万となっております。営業利益につきましては、2.4%増益の 32 億 7,200 万となっております。一方で四半期純利益につきましては、1.6%減益の 23 億 200 万という結果になっております。営業利益につきましては増益となっているんですが、円高等の影響によりまして、四半期純利益は減益となっております。

では、それぞれ業績の要因をご説明してまいりたいと思います。

まず外部要因です。外部要因は3点ございます。プラスの要因としましては、AF 症例、こちらが前年同期比で5%から6%の増加となっております。前期に比べて増加率が低くなっているのですが、当期、この第1 四半期におきまして学会があったことがございます。前年は第3 四半期に学会がありましたが、第1 四半期の対比で申し上げますと、この分が減っているところになっております。この学会の影響を除きますと、8%から9%の増加が、この AF 症例の伸びと推定しております。

2 番目、これはマイナス要因になるのですが、EP/アブレーションの分野で PFA という手技が浸透しております。これによりまして、一部の自社製品で売上が大幅に減少しているところがございます。

3 番目、こちらにもマイナス要因ですが、公定価格につきましては昨年の6 月に改定されております。前期との対比で申し上げますと、2 カ月分のマイナスがございまして、この影響を受けたところでございます。これによりまして、粗利で9,000 万ほどのマイナスの影響が出ております。

続きまして、当社の取り組みなどの内部要因となっております。こちらにも3 点ほどトピック、ございます。

1 点目、プラス要因ですが、コア製品群ですね。こちら、総じて好調を維持しております。2 点目、これもプラスの要因になっているんですが、新領域につきましても、製品ラインナップの強化などによりまして、前期比で47%増加しております。

3 番目、販管費ですが、研究開発費ですとか、あと人件費などの増加によりまして、前期比で費用が増加しております。これによって少し利益を押し上げているところで、トータルとしましては増収、営業増益と着地をしております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



✓ 増収、営業増益。当期純利益は減益

(百万円)	2025/3期 Q1	2026/3期 Q1	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	14,010	14,616	+ 605	+ 4.3	(+) 症例増による販売増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	8,583	8,769	+ 186	+ 2.2	(-) 公定価格の下落(影響2か月分) (-) 自社製品比率の低下
%	61.3%	60.0%		▲ 1.3pp	
販管費	5,388	5,497	+ 108	+ 2.0	次ページで詳細説明
営業利益	3,194	3,272	+ 77	+ 2.4	次ページで詳細説明
%	22.8%	22.4%		▲ 0.4pp	
四半期純利益	2,340	2,302	▲ 37	▲ 1.6	(-) 為替差損の増加 (-) 固定資産除却損の増加
%	16.7%	15.8%		▲ 0.9pp	
自社製品比率	58.2%	55.6%		▲ 2.6pp	脳血管・止血デバイス等の仕入商品の拡大 食道カテーテル等の自社製品の減少 ^{*1}
海外売上高比率	2.0%	2.4%		+ 0.4pp	
1株当たり利益	31.95円	32.85円	+ 0.90円	+ 2.8	(+) 期中平均株式数(自己株式除く)の減少

*1 自社製品売上高 0.5%減収、仕入商品売上高 10.8%増収

5

こちらはP/Lの前期比較となっております。営業利益までにつきましては、次のスライドでご説明をさせていただきます。

営業利益以下につきましては、四半期純利益、ここは減益となっているんですが、営業利益以下のところで、円高の影響ですとか固定資産の除却、こういったところの影響によりまして、四半期純利益につきましてはマイナスとなっております。

あと、自社製品比率につきましては58.2%から55.6%で、2.6ポイント減少しております。こちらの要因としましては、仕入れ商品のうち、脳血管領域ですとか止血デバイス、こちらが大きく伸長したところがございます。これに加えて、PFAの影響によりまして、食道温モニタリングカテーテルなどの自社製品ですね。こちらが減少したことによりまして、自社製品比率が低下しております。

あと、一番下のところでEPSです。EPSにつきましては営業減益となっているんですけど、前期の6月に自己株式の取得をしたというところで、期中平均株式数が減少したことによりまして、0.9円増加をしているというところになっております。

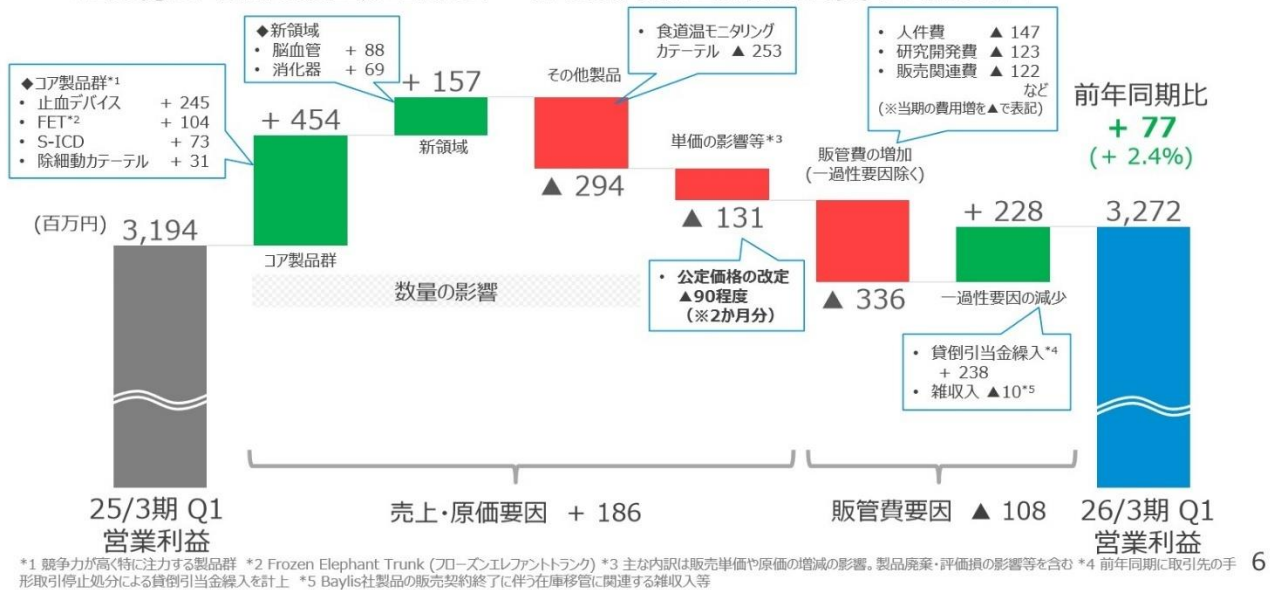
サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2026/3期 Q1 営業利益の増減分析

✓ 注力分野の販売数量が増加し、一部製品の数量減と販管費の増加をカバー



こちら、営業利益の前期との比較を表で表したものとなっております。

全体としましては、コア製品群や新領域などの注力分野の販売数量が増加しました。PFAによる一部製品の販売数量の減少と販管費の増加があったんですが、これを販売数量の増加がカバーしまして、微増益と、7,700万円の増益となっております。

売上と原価の要因と、販管費要因に分けてそれぞれご説明をさせていただきます。

売上と原価の要因、こちらにつきましては、トータルで1億8,600万の増益となっております。コア製品群が、それぞれ販売数量の増加によりまして4億5,400万の増益となっております。新領域ですね。こちらにつきましても、脳血管、消化器ともに、販売数量の増加によりまして1億5,700万円の増益となっております。

一方で減益要因もございます。減益原因としましては、PFAの浸透によりまして、食道温モニタリングカテーテルの販売数量が減少したところで、2億5,300万の減益となっております。もう1点、前期6月に公定価格の改定がありまして、9,000万の減益となっております。

これらの要因、その他も加えまして、売上・原価の要因としましては1億8,600万の増益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

その右、販管費の要因でございます。こちらにつきましては、給与水準の引き上げによる人件費の増加ですとか、PFAなどの研究開発費の増加ですとか、あとは営業活動の増加によりまして販売管理費が増えたというところで、3億3,600万の減益要因となっております。

一方で、前期発生していた一過性の費用があるんですが、こちらは当期発生していないというところがございまして。前期、取引先の手形取引停止処分によりまして貸倒引当金を計上していたんですが、ここが今期は発生しないことで、2億2,800万の増益となっております。

こちら、売上・原価要因と販管費要因、足し合わせまして、営業利益としては7,700万、2.4%の増益に着地しております。

2026/3期 Q1 予想に対する進捗率

JL Japan Lifeline

✓ Q1は売上・利益ともほぼ期初予想通り順調に進捗



7

こちらは業績予測に対する進捗率となっております。通期業績に対して何パーセント進捗しているかをお示ししているものになります。

売上高と営業利益、純利益それぞれ、進捗率はおおむね 25%となっております。それぞれ第 1 四半期につきましては、おおむね当初の計画通りに、順調に進捗をしている結果となっております。

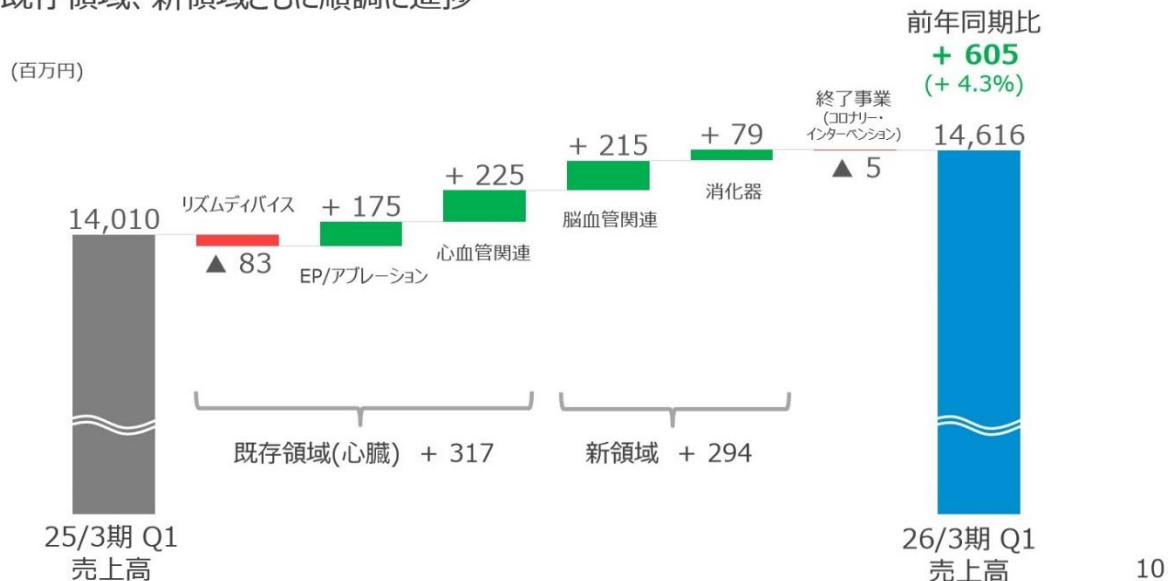
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

2026/3期 Q1 売上高 増減分析

✓ 既存領域、新領域ともに順調に進捗



10 ページをお願いいたします。ここから品目別の売上となっております。

総じて順調ではあるんですが、環境も厳しいリズムデバイス、こちらは減収となっているんですが、他の品目では前期比で増収となっております。既存領域につきましては3億1,700万円の増収、新領域につきましては2億9,400万の増収となっており、全て合わせまして6億500万、4.3%の増収となっております。

2026/3期 Q1 リズムデバイス

既存領域

新領域

コア製品のS-ICDは二桁成長を継続するも、ペースメーカーで苦戦し減収

リズムデバイス 売上高



市況&販売ハイライト

(+) コア製品のS-ICD 20.5%増収

- 一次予防(致死的不整脈発症前に予防的に植え込む)のトレンドが加速し、症例数が増加 (前年同期比+9%)
- 他社の新製品発売の影響を若干受けるも、新規症例を多く獲得

(-) ペースメーカー関連 24.0%減収

- 他社リードレスペースメーカーの浸透(新規市場の30%)が逆風
- 公定価格改定の影響(約14%下落)あり ※2か月分
- 前年同期に本体交換需要で一時的な増加あり

(+) リードマネジメント製品 Q1より販売開始



11

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

続きまして、リズムデバイスとなります。

今回から少し資料の構成を変更しております。左側に売上高の増減グラフを置いておきまして、その内訳としまして、グラフの中に主要製品の増減を表示し、増減率を示す構成にしております。その上で、右につきましては前期までに別々に掲載していました市況と販売ハイライト、こちらをまとめてポイントを記載している構成になっております。

最初はリズムデバイスになります。リズムデバイスにつきましては、S-ICD が2桁成長を続けているんですが、環境の厳しいペースメーカーで苦戦しており、減収となっております。ポイントとしましては、まず S-ICD、他社の新製品の販売の影響がありましたが、一次予防の浸透による症例数の増加ですとか、あとは新規症例の増加というところで、トータルで 20.5%と大きな増収となっております。一方でマイナス要因としましては、ペースメーカー関連としまして、リードレスペースメーカーの浸透や公定価格の改定の影響などによりまして、24%の減収となっております。

さらに第1四半期のトピックとしましては、新製品のリードマネジメントデバイス、こちらを販売開始しております。結果としまして、リズムデバイス全体としましては 2.4%の減収となっております。

【New】リードマネジメントデバイス

既存領域

新領域

JLE Japan Lifeline

✓ 取扱製品ポートフォリオと親和性の高いリードマネジメントに仕入品で参入

製 品	・ フィリップス社製 リードマネジメントデバイス
使用 場面	・ 植込みデバイスに接続された心内リードを抜去する (感染症、リードの損傷など)
販 売	・ 2025/5 販売開始 ・ 心臓植込みデバイスの植込みから抜去まで一貫したサポートを提供
市 場	・ 年間約1,000例 ・ 市場規模7億円 ⇒ 潜在的に20~25億円*3
主 な 特 長	・ エキシマレーザを用いた安全かつ効率的な抜去 ・ 国内市場でトップシェア(60%超)



エキシマレーザ心内リード抜去システム*1
「GlideLight レーザシース」
保険償還価格：311,000円*2



リードロックングデバイスキット
「リードロックングデバイスキットLLD」
保険償還価格：91,000円



Bridge オクリュージョン
バルーンカテーテル
「Bridge バルーン」
保険償還価格：38,100円

*1 製品画像に関する著作権はPhilips社が保有する *2 保険償還価格は2024年6月1日時点 *3 心内リード抜去はリスクのある処置のため、本来処置するのが望ましいが実施されないケースがあると推測される。本品を用いた安全なリード抜去を啓発することで、市場の拡大が期待される

12

続きまして、リードマネジメントデバイスの詳細を少しお話させていただければと思います。

このリードマネジメントデバイスですが、リードによる感染症ですとか、リードの損傷への対応としまして、植込みデバイスのリードを抜去するためのデバイスとなっております。当社、このデバ

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

イスを取り扱うことによりまして、植込みデバイスの植込みから抜去まで、これを一貫したサポートができる製品ポートフォリオを構築できたということになっております。

この製品の現在の市場規模ですが、7億円となっておりまして、これ、まだまだ潜在的な患者様がいると言われておりまして、潜在的には20から25億程度の市場があると想定しております。当社につきましては、こちらの製品をフィリップス社の日本法人から引き継ぐ形で、5月から販売を開始しております。こちらの製品、国内市場ではシェアが60%超とトップシェアになっておりまして、こちらを当社が取り扱うことになったというところでございます。

2026/3期 Q1 EP/アブレーション

既存領域

新領域

JL Japan Lifeline

コア製品の好調な販売でPFAの自社製品への影響をカバー

EP/アブレーション 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) 心房細動(AF)症例の増加 前年同期比+5~6%

➢ 学会の影響を含む*2 これを除くベースでは同+8~9%と推定

(+) コア製品の心腔内除細動カテーテル 3.6%増収

➢ 推定自社シェア96% (6月) : YoYでシェア2pt減少

➢ 前期末に一括販売した影響あり(将来需要の先取り)

(+) コア製品の止血デバイス 前年同期比 2.5倍

➢ ハイボリューム施設での新規採用、小規模施設への浸透が進む

(-) PFA*3の影響を受ける

➢ PFAはAF症例全体の55%まで普及(6月)

⇒ 当期末想定50%→60%に引上げ

➢ 食道温モニタリングカテーテル 47.5%減収 (PFAで不要)

➢ EPカテーテル*1 6.8%減収 (PFAで使用本数が減少)

公正価格改定の
影響(4~8%下
落)も含む

*1 心腔内除細動カテーテルおよび食道温モニタリングカテーテルを除く電極カテーテル *2 2025年5月開催の不整脈関連の主要学会(カテーテルアブレーション関連大会)の影響として2営業日弱程度あったと推定。同学会は前期は2024年11月(Q3)に開催。学会には全国の不整脈医が参加するため、大会期間の前後で症例数が減少 *3 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション。カテーテルアブレーションの新しい治療法

13

続きまして、EP/アブレーションになります。

EP/アブレーションにつきましては、心腔内除細動カテーテル、止血デバイスといったコア製品の好調な販売で、PFAの浸透による自社製品へのマイナス、こちらの影響をカバーしたというところで、2.5%の増収となっております。

右側のところ、1番目の市況ですが、AF症例、こちらが前年同期比で5~6%の増加となっております。前期の伸長に比べると低くなっているんですが、こちらは、第1四半期におきまして全国の不整脈医が参加する学会があったんですが、前期は第3四半期に開催されていたということで、これによって、昨年第1四半期対比で3%ほどの影響が出ております。こちらの学会の影響を除きますと、AF症例の伸び率としましては8%から9%と推定しております。

2番目、こちらからは販売のハイライトとなります。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

心腔内除細動カテーテル BeeAT につきましては、3.6%の増収となっております。シェアにつきましては96%と、前期末比で横ばいとなっているんですが、前年同期比となりますと、2社目の搬入が前期あったというところで、2ポイントほど低下しております。

あともう一点ですが、前期第4四半期に、通常であれば手術に応じて1本ずつ使われるところですが、一括して販売を行っておりまして、ここで需要の先取りがあったというところで、伸び率が低くなっております。

3番目、止血デバイスになっております。止血デバイスにつきましては、ハイボリューム施設の新規採用ですとか小規模施設への浸透が進みまして、前年同期比で2.5倍の増収となっております。

一方で、ちょっとマイナス要因がございます。マイナス要因としましては、PFAの浸透がございまして、これによって自社製品へのマイナスの影響がございまして、PFAの浸透率ですが、AF症例の全体の55%まで普及してきております。当社の想定としましては、当期末の時点で50%ほどの浸透率になると想定していたんですが、現時点では、当社の想定としては60%程度まで達すると見込んでおります。

このPFAの浸透による影響としましては、2点ございまして、一番大きく影響を受けるものとして食道温モニタリングカテーテルがございまして、こちらは、PFAの症例では使用されないものになりますので、この影響によりまして47.5%の減収となっております。

もう1点、EPカテーテル、こちらもPFAの影響によりまして使用本数が減少する製品となっております。こちらにつきましては、6.8%の減収となっております。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

Frozen Elephant Trunk (FET)*1が二桁成長し、増収をけん引

■ 心血管関連 売上高

(百万円)



*1 FET：大動脈疾患の開胸手術で使われる末梢側にステントがついている人工血管

■ 市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のFET 12.9%増収

- FETの症例数が増加 前年同期比+10%
- 単価の高い「4分岐一体型」製品の数量が増加
- 不足していたサイズ(長さ・径)を充足、競争力を強化
⇒ 推定自社シェア88%(6月) 強化の効果はQ2以降を見込む

(+) 人工血管 8.6%増収

- 他社が一部の製品ラインから撤退し、自社シェアが増加

(ー) 腹部ステントグラフト 1.3%減収

FET 人工血管一体型
「Frozenix 4 Branched」

14

続きまして、心血管関連になります。

心血管関連につきましては、Frozen Elephant Trunk、FET が2桁成長と、増収を牽引しております。この結果、8.1%の増収となっております。

販売ハイライトにつきましては、3点ございます。まず1点目、FET につきましては12.9%の増収となっております。市場環境としましては、このFETの症例数、前年同期比で10%伸びている環境となっております。これを上回る増収率にはなっているんですが、理由としましては、製品ミックスとして単価の高い4分岐の一体型製品の数量が増加したところがございます。これによって症例数の伸びを超える増収率となっております。

またシェアとしましては88%となっております。前期末から若干のマイナスとなっておりますが、ここに不足していたサイズを充足して、これがQ2以降から寄与してくると見込んでおります。

2番目、人工血管となります。人工血管につきましては、他社の撤退があったことによりまして、当社のシェアが伸長しております。この結果によりまして8.6%の増収となっております。

3番目、最後ですが、腹部ステントグラフトにつきましては、1.3%の微減収となっております。

以上の結果によりまして、8.1%の増収となっております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

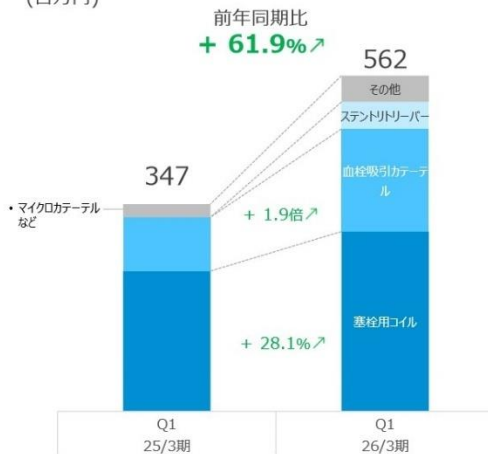
0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

各製品が順調に進捗、高成長をけん引

■ 脳血管関連 売上高

(百万円)



■ 市況 & 販売ハイライト

(+) 塞栓用コイル 28.1%増収

- 主力モデルを中心に販売は好調に推移
- 放射線科向けの新モデルを導入し診療科を拡大

(+) 血栓吸引カテーテル 前年同期比 1.9倍

- 細径モデルを追加、市場の約30%を占める末梢の症例にアクセス開始
- 推定自社シェアは20%程度に拡大、業界3番手に躍進

(+) ステントリトリバー 預託施設数を伸ばす



15

続きまして、脳血管関連となっております。

こちら、各製品が順調に進捗しておりまして、61.9%の増収と高成長となっております。

販売ハイライトは3点ございます。塞栓用コイルにつきましては、主力モデルを中心に販売が好調を維持しております。放射線科向けの新モデルを導入したことで、診療科を拡大したことによりまして28.1%の増収となっております。

2番目、血栓吸引カテーテルにつきましては、細径のモデルを追加しておりまして、市場の30%を占める末梢症例に対応した製品を導入することができております。これによって1.9倍と、増収となっております。血栓吸引カテーテルの市場でのポジションとしましては、シェアが20%程度に拡大しておりまして、業界3番手のシェアとなっております。

3番目、前期から販売を開始しておりますステントリトリバー、こちらにつきましても、預託施設数を伸ばしたことによりまして、増収に寄与しております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

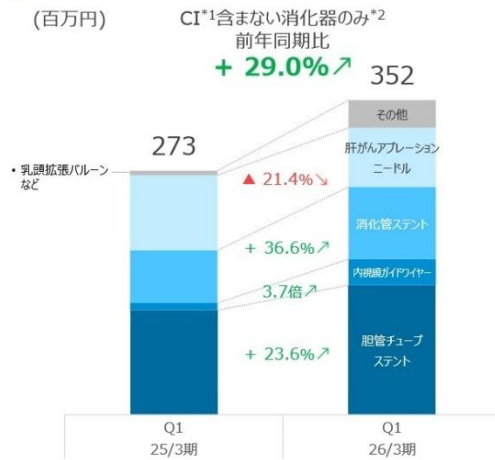
0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

注力している胆膵領域を主軸に順調に拡大

消化器 売上高

(百万円)



*1 CI: Coronary Intervention 心筋梗塞などの虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンションに関連する事業で24/3期に終了(一部の売上が残る)
*2 CIを含むベースでは25/3期Q1 307百万円 26/3期Q1 380百万円 (前年同期比23.9%増収)

市況 & 販売ハイライト

(+) 胆管チューブステント 23.6%増収

➢ 形状の異なる新モデルを上市し、顧客訴求力を強化

(+) 内視鏡ガイドワイヤー 前年同期比 3.7倍

➢ 前期末よりフルローンチ開始

(+) 消化管ステント 36.6%増収

➢ 前年同様に胃・十二指腸用ステントで自主回収発生、改良品が伸長

(-) 肝がんアブレーションニードル 21.4%減収

➢ Q1からテルモ社への販売移管開始、販売単価は減少



既存モデル：ストレートタイプ



新モデル：ビッグテールタイプ

16

続きまして消化器です。消化器につきましては、注力領域である胆膵領域、こちらが順調に拡大しております。

販売ハイライトとしては4点ございまして、注力している胆膵領域、上から二つになるんですが、胆管チューブステントですね。下の写真に掲載している新モデル、このビッグテールなんですが、こちらを上梓したこともあり、23.6%の増収となっております。

2番目につきましては、前期末、フルローンチした内視鏡ガイドワイヤー、こちらも3.7倍と大きく増収となっております。

3番目、消化管ステントにつきましては、こちらも好調になっておりまして、改良品が伸長したことによりまして36.6%の増収となっております。

一方でマイナス要因としましては、肝がんアブレーションニードルですね。こちらにつきましてはテルモ社への販売移管を行っておりますので、単価が減少したことによりまして、21.4%減収となっております。

以上が品目別の売上の状況となります。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

✓ 中期経営計画の数値目標へのコミットメントを高めるため、有償ストック・オプションを導入

割当する株式の種類	新株予約権 1 個あたり普通株式100株
割当対象者・個数	当社取締役（監査等委員除く） 10名 6,150個 当社執行役員 6名 900個
発行総数	7,050個 ※すべて行使された場合、705,000株に相当し、発行済株式総数71,300,000株に対する比率は1.05%
新株予約権の割当日および払込期日	2025年8月19日
オプション価額	新株予約権 1 個あたり100円
行使価額	1,458円（2025年7月30日の終値）
権利行使期間	2028年7月1日から2035年8月18日
行使の条件	2028年3月期に連結売上高700億円を超過した場合

17

最後のスライド、こちらは本日プレスリリースもさせていただいているんですが、有償ストックオプション制度の導入となっております。

5月7日に上方修正を公表しました、中計のコミットメントを高める意味をもちまして、有償ストックオプション制度を導入しております。制度といたしましては、割当対象者である取締役と執行役員、こちらがオプション料を支払い、業績要件を満たしたときに行使価格で株式の取得ができる制度です。業績要件としては売上高 700 億、これを 2028 年 3 月に達成するというところになっているんですが、中計の目標値としましては EPS が 145 円となっております。これで市場平均の PER15 倍を掛けますと、今より高い株価になりますので、この値上がり部分がインセンティブとして働くと。中長期の業績に対するインセンティブ制度になっております。こちら、権利確定後の株式の発行につきましては、自己株式の処分を予定しております。

達成すべき業績としましては、先ほど申し上げました通り、2028 年 3 月期の売上高 700 億円超ですね。これを達成しますと、この権利が確定するというところになっておりまして、これ、取得者につきましては、業績目標の達成にコミットして取り組んで参る表明とさせていただければと思っています。

以上、説明資料のご説明となります。

質疑応答

篠原 [M]：それでは、これより質疑応答に入ります。なお、質問につきましては、お1人様1回につき2問までとさせていただきます。

それでは、質疑応答を開始いたします。最初に、みずほ証券の甲谷様、お願いいたします。

甲谷 [Q]：すみません、みずほ証券の甲谷です。解説いただいたんですが、最初の質問として、今回全体で見ると、たぶん25%ということで、そんなにあれなんですけれども、たぶんセグメントによって、思ったより強い、弱いはあったと思うんですけど、それ、ご解説いただけますでしょうか。ぱっと見、リズムデバイス、EP/アブレーションが少し想定より弱かったのかな。それを脳血管とか他の人工血管のところで補った。そんな理解でいいんでしょうか。

江川 [M]：そうですね。それぞれ当社の当初の業績予想との対比という理解でよろしいでしょうか。

甲谷 [M]：そうですね、はい。

江川 [A]：リズムデバイス、こちらにつきましては少し、ご理解の通り、当社の予測に対してマイナスになったというところがございます。これに対しまして、やはりEP/アブレーションですとか、あとは心臓、こちらのところの好調でカバーしたような構成にはなっております。

甲谷 [Q]：EP/アブレーションは好調なほうになるんですね、これ。

江川 [A]：そうですね。当社の予測よりは好調になります。

甲谷 [Q]：御社、たしか食道温モニタリングカテーテルは、期初の予定だと3割ぐらい減るみたいな、そのぐらいだと思うんですけど、これ、見ていると47.5%ですが、かなり減っているの、ちょっと想定より弱いんじゃないかなと思ったんですが、そうでもないんですね。

江川 [A]：そうですね。EP/アブレーションのところは、申し訳ありません、ここは当初の予想とほぼ横ばいとなっております。予想通りです。

甲谷 [Q]：わかりました。

2点目ですが、全体感として、御社、今までけっこう日本の会社との既存のBeeATとかFrozen Elephant Trunk、そこの部分を守るのは、非常に成果があるのかなと思っているんですけど、やは

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

り一番コントロールできないのは、他社のイノベーションですよね。PFA がかなり影響が出てきているということなので。

そこで気になるのは、どうしても S-ICD なんですね。まだ Aurora EV-ICD、3 月承認されたばかりですから、そんなにすぐに影響は出てこないんですが、これからたぶんメドトロニックさんも力を入れてくるんじゃないのかなとなるので、これは本当にこの S-ICD を守れるのかどうか。この辺についてコメントいただけますか。これが最後です。

伊藤 [A]：では、不整脈を担当しております伊藤からご回答させていただきます。

おっしゃる通り、今、メドトロニックがこの 3 月から EV-ICD を導入しまして、医師のトレーニングなどでいろいろ実施していると把握しております。ただ、胸骨の上に S-ICD はリードを入れるタイプですが、EV-ICD は胸骨の下に入れるということで、侵襲度は非常に高く、ドクターの意見を聞きましても、かなり製品的に S-ICD の優位性はあるのではないかと考えております。

また、欧米に比べますと、日本においてはまだ一次予防の植込み率は、かなりレートとしては低いので、競合製品が出ることによって、そのマーケット自体も拡大するとは読んでおります。

以上でお答えになっているでしょうか。

甲谷 [M]：わかりました。ありがとうございます。

篠原 [M]：引き続き質問をお受けしております。

それでは次に、野村證券の森様、よろしくお願いいたします。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

✓ 売上高のQ単位のトレンドを矢印で表す。前回の見通しに変更がある場合は、コメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2026/3期 Q1 実績		2026/3期 Q2 予想		2026/3期 Q3 予想	
		営業日数：62		営業日数：62		営業日数：60	
リズムデバイス	ペースメーカー関連	➡	他社リードレスの拡大 営業日数 前Q+5日、以下同	➡	前Qから大きな変化なし	➡	前Qから大きな変化なし 営業日数 前Q▲2日、以下同
	ICD関連	➡ 前回：➡	S-ICD好調。T-ICD軟調	➡	他社新型ICD増加、S-ICD交換症例減少	➡	前Qから大きな変化なし
EP/アブレーション	EPカテーテル	➡	AF症例増YoY5～6%増に伴う除細動カテーテル増加。PFA拡大による食道カテーテル等の減	➡	AF症例数YoY9～10%増。PFA浸透スピードは一旦落ちるか	➡	AF症例数YoY9～10%増
	ABLカテーテル	➡ 前回：➡	ABLカテーテル全軟調	➡ 前回：➡	前Qより厳しい状況を見込む	➡	前Qより厳しい状況を見込む
	その他	➡	止血デバイス伸長	➡	前Qから大きな変化なし	➡	前Qから大きな変化なし
心血管関連	人工血管関連	➡	季節性の減。FETにおける市場拡大・競争激化	➡	前Qから大きな変化なし。FETは追加した太径サイズの寄与	➡	前Qの状況継続+季節性の増
脳血管関連	脳血管関連	➡ 前回：➡	血栓吸引カテーテルモデル寄与。コイル堅調	➡ 前回：➡	前Qから大きな変化なし	➡	ステントリトリバーのメーカー付の新モデル寄与
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	➡ 前回：➡	前Qに肝がんニードル挿入。チューブステントは新モデル追加で伸長	➡	消化管ステント持ち直し。胆管バルーン・チューブステント・ガイドワイヤー伸長	➡	前Qより個別の製品をさらに伸ばす

凡例： ➡ 前Qより増加 環境はポジティブ ➡ 前Qから横ばい 環境はポジティブ ➡ 前Qより減少 環境はネガティブ ➡ 前Qから横ばい 環境はネガティブ

21

森 [Q]：野村證券の森です。よろしくお願いします。

スライドの 21 ページ、6 カ月先への見通しですが、前回から変化したところについて、ここを詳しく教えてください。

江川 [M]：21 ページのこちらの表につきまして、それぞれの分野についてということでしょうか。

森 [M]：結構です。前回から変えているところがあると思いますので。

伊藤 [A]：では、伊藤から、不整脈に関しまして。前回 ICD が、環境としてはネガティブでしたが、こちらは緑色の矢印に変わっております。緑の前提は、前クォーターから横ばい、環境はポジティブというところで、S-ICD が非常にやはりこの四半期、好調でございました。これは先ほど江川も申しましたように、一次予防への植込みが進んでいると考えておりまして、市場を見ますと、同時期比較で約 20%、新規植込みが増えていると出ておりますので、変更してございます。

その他の不整脈の変更点としては、アブレーションカテーテルですね。アブレーションカテーテルは、やはりもう本来ですと規模的には、弊社においてポートフォリオの中でも、非常にもうユニットとしては少ないですが、一定数 RF の既存の PFA、RF のアブレーションを実施している施設も、まだ 3 割程度症例数ではあると認識しておりまして、予想よりはネガティブではないというところで、前期から横ばいに変更させていただいております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

村瀬 [A] : CVG 関連ですが、副社長の村瀬から説明いたします。

まず脳血管関連ですが、ファーストクォーター、前回、下のネガティブの矢印でしたが、今回 3 フレンチの血栓吸引カテーテルが早めに導入できたことで、横ばい、環境はポジティブとしております。

Q2 ですね。ここは前はポジティブ、矢印は上になっていたんですが、その Q3 の予想のところに書いているマーカー付きモデルが、少しだけ 9 月に入ってくるんですが、前回まではもう少し早くという予想だったので、予想を変更しております。

消化器関連に関しては、ガイドワイヤー関連ですね。こちらがこのファーストクォーター、在庫が十分揃っていなかったのもので、そこで商売のチャンスを逃したということで、実績としては前クォーターより環境はネガティブとさせていただいております。

以上になります。

森 [Q] : ありがとうございます。

2 点目ですが、止血デバイスなど他社から入れているもの、あるいは自社で製造している FET などですけれども、供給不足が発生していないか。マーケットの需要ほどきっちり調達できているかどうか。この製品の供給力について教えてください。以上です。

村瀬 [A] : 副社長の村瀬から回答いたします。

現状、供給不足が発生している製品は、今のところございません。一部、先ほどガイドワイヤーが少し足りないとか、例えば FET が、資料にもありますように、再追加がちょっと追いついていないというものはありますが、大幅な供給不足で商機を逃している製品は、今のところございません。以上です。

森 [M] : ありがとうございます。以上です。

シノハラ [M] : 森様、ありがとうございました。

それでは続きまして、UBS 証券の葭原様、お願いいたします。

葭原 [Q] : UBS 証券、葭原です。よろしくお願いいたします。EP/アブレーションのところで 2 点お伺いさせていただきます。

私の認識不足でしたら恐縮なのですが、この 1Q、営業利益の減益要因として、食道温モニタリングカテーテル 2 億 5,000 万といただいていたんですが、これは前のクォーターの 4Q から比べると、

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

絶対額としては増えているのか減っているのか。いちおう先ほどの 21 ページを拝見すると、2Q で一定程度この食道モニタリングのマイナスは一巡するようなご前提で書かれていたかなと思いますので、そうすると、マイナスの幅は、1Q、2Q はほぼ横ばいと考えてよいのか。そこを、細かくて恐縮ですが、確認させてください。

伊藤 [A] : はい。では、不整脈を担当しております伊藤からお答えいたします。

まず 4Q、前四半期から絶対額として減っているのかという質問ですが、減っております。ただ、その落ち込み額については、大きな下落ではございませんで、といいますのは、中去年の 11 月から PFA が導入され、それによってこの食道カテテルのニーズは減っていくわけですが、予想以上に PFA の浸透は進んでおります。

ただ、今、この PFA をやるであろう施設が一定数もう入っておりますので、これからの PFA の浸透率の伸びは鈍化すると読んでおります。したがって、このような表現に至っております。

以上でお答えになったでしょうか。

葭原 [Q] : はい。そうすると、この食道モニタリングのマイナス影響が一番大きいクォーターは、この 1Q と考えておけばよいんですか。結論として。

伊藤 [A] : はい、そのように認識しております。

葭原 [Q] : 承知いたしました。ありがとうございます。

2 点目は、EP カテのほうですけれども、こちらも PFA の影響でマイナスの影響を受けていると記載をいただいております。

私の不勉強かもしれないんですが、保険の査定の関係で、けっこう都道府県によって、この EP カテの使い方に何かばらつきがあるようなお話も伺っております。EP カテのマイナス影響も、同じくマイナスの影響が一番大きいのは、この 1Q と考えてよいのか。それとも、逆にちょっとしばらくダラダラ下がっていくような状況を想定しておいたほうがいいのか。もしご見解がありましたらお聞かせください。

伊藤 [A] : EP カテにおきましては、EP カテにもいくつか種類がございますので、肺静脈に入れるタイプの、リングカテと呼んでおりますけれども、そのタイプのカテテルは、PFA にそっくり置き換わっておりますので、先ほどの食道カテ同様にユニットは落ち込んでおります。

またもう一つのご質問、保険の査定で都道府県によってばらつきあるかという面ですが、これも、先生方の保険の認識の違いによって、過剰に使用控えをしていた先生もいくつかいらっしゃるという

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

うところで、先日のアブレーション学会でも、その認識について改めて啓発するようなセッションもございました。ということで、今以上に保険の査定の影響で大きく変化があるかという、そうではないと考えております。

葭原 [Q]：そうしますと、EP カテも、マイナス影響が一番大きいのはこの 1Q と考えてよいということですか。

伊藤 [A]：はい、そのように考えております。

葭原 [M]：承知いたしました。ありがとうございます。

篠原 [M]：葭原様、ありがとうございました。引き続きご質問を受け付けております。ご質問のある方は、質問をお寄せください。お願いいたします。引き続き質問を受け付けておりますが、いかがですか。

それでは、他に質問がないようですので、質疑応答を終了させていただきます。

以上で、日本ライフライン株式会社 2026 年 3 月期第 1 四半期の決算説明会を終了いたします。

本日ご質問いただけなかった方も、弊社では 1on1 の IR 取材を随時受け付けておりますので、ご希望される方は弊社 IR までご連絡いただけますと幸いです。電話でご参加の方は、回線の切り忘れにご注意ください。本日は説明会にご参加いただき、ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com